

令和8年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
国語	○目的に応じて話の構成を工夫し、分かりやすく伝える力	本校における全国学力・学習状況調査 平均正答率 68% ○本校は全国の前年より概ね高いが、学習指導要領「話すこと・聞くこと」における問題の正答率が全国の前年 73.9%に比べて69.4%と低かった。このことから、話の目的や相手を踏まえて、理由や具体例を整理しながら構成を考えると、構成メモの工夫を読み取ることに課題が見られる。	○話す目的や相手を明確にしたスピーチを取り入れ、話の構成を意識して話す学習を充実させる。 ○児童同士で発表を聞き合い、相手に伝わりやすかった点や改善点を伝え合う活動を設定する。 ○国語科だけでなく、総合的な学習の時間や社会科等の発表の時間においても構成メモを活用し、教科横断的に「話すこと・聞くこと」の指導を積み重ねる。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
社会	○資料から必要な情報を読み取ったり、そこから考えたことを適切に表現する力	○課題に対して探し出した複数の情報を吟味したり、それを分かりやすくまとめる力に課題が見られる。	○インターネットやAIの情報をそのまま使わずに、いくつかの情報から必要なことが考えるように指導する。誰にどのような目的で伝えるかという意識をもたせてまとめたり発表させたりする。
	○学習したことから主体的な社会との関わり方を考える力	○学習したことを基に自分の生活との関連を考え、自分にできることや大切なことを考え表現する力に課題が見られる。	○社会的現象の仕組みや働きを学んだ上で、自分の身近でどうか、自分たちはどうすればよいか、これから何が大切かなどの問いを設けて考え、表現する活動を単元の最後に取り入れる。

令和8年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
算 数	○対話的な学びを通して、 自分の考えを説明したり、 数学的な考え方を働かせ、 よりよい解決方法を見いだす	本校における全国学力・学習状況調査 平均正答率 74% ○思考・判断・表現を問う問題に おける無回答率については、 1.5%改善したものの、昨年度 と同様、都の結果を下回った。 難易度の高い問題や、複数の 情報を関連付けて考える問題 解決に課題が見られる。	○基礎・基本の学力を定着させ、主 体的に学習に取り組む態度を育 成するために、児童が考えを表現 し、対話を通して学びを深める授 業改善を推進する。
	○課題に対して適切な表 現を考え、図や式、言葉 などを使って、課題を解 決する力	○知識として理解していること は多いが、普段の学習の様子か ら、学習したことを基に自分の 考えを説明したり、表現するこ とに課題が見られる。	○習熟度に応じた指導や自分の考 えを図や式・言葉で表現する活動 を取り入れ、思考力・判断力・表 現力の育成を図る。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
理 科	○問題を見だし、計画的 に観察・実験を行い、問 題解決する力	○予想や仮説を基に、実験計画を 立てる力、結果を分析し考察す る力に課題が見られる。	○毎回の授業開始時に、前の授業の 振り返りをする。単元内の用語やポ イントを、単元末に確認する。
	○学んだことを自然の事 物・現象や日常生活に生 かそうとする力	○知識として事実を知っているこ とが多いが、日常生活に結び付 ける力に課題が見られる。	○個人で意見を考える時間を増や す。学習内容のポイントを明らかに し、今までに得た知識を基に考え、 説明できるよう意識させる。 ○実物を見たり触れたりする機会を 増やす。また、学習の流れに沿って 日常生活と自然事象を結び付ける 授業を展開する。

令和8年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
音楽	○表現に合った演奏をするために必要な技能	○表現に向けて意識的に工夫したり、考えたりすることが十分でなく、「なんとなく」の表現になってしまう。	○多様な表現のよさを認め合い、一つの正解にとらわれることなく、互いの感じ方や表現の違いを尊重する態度を育てる。
	○曲や演奏のよさを感じ取り、味わって聴く力	○友達の感じ方や考え方に触れる機会が少なく、自分の音楽の捉え方や聴き方を広げにくい。	○ICT機器や音源を活用し、自分の表現について気付いたことや考えたことを振り返り、表現の工夫や変化を実感できる時間を設ける。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
図工	○創り出す喜びを味わい、生活や社会と豊かに関わる態度	○生活体験の個人差が大きく、道具等の扱いや、素材に触れる等実体験が不十分である。	○道具等の扱い方について、基礎・基本を丁寧に説明し、実体験を通した指導を繰り返す。
	○「造形的な見方・考え方」を働かせる力	○児童の様々な価値観のよさを生かし、互いに学び合える意識が不十分である。	○自分の生活につながり、愛着をもてる課題を設定する。 ○日本や諸外国の文化を尊重しつつ、造形活動を通して互いのよさや多様な考え方を見付けられるような学びの機会を設ける。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
家庭	○よりよい生活をするための工夫や実践的な活動をする力	○家庭生活に関わる家族の一員として、家庭の仕事を担うことは、家族のために必要があるという意識が薄い児童が多い。更に、授業で学習したことを実際の家庭生活に生かすところまで至らない児童が多い。	○児童が自らよりよい生活をするための工夫を家族に提案できるように、ICT機器を活用して、互いの考えや意見を共有し、実践可能な活動につなげられるようにする。
	○製作や実習を通して技能を身に付けさせ、生活に役立てる力	○生活習慣や生活体験の個人差が大きい。特に調理道具や裁縫道具の扱いに関しては、実体験が無い児童が多い	○裁縫や調理などの実習を行う際には、ICT機器を活用して、安全面の配慮をしながら、実施する。実習したことを、家庭でも実践できるような振り返りの工夫をする。

令和8年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
体育	○特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全への理解と、基本的な動きや技能	○長座体前屈について、全国平均と比較して下回っている学年があるため、柔軟性を高めること。	○「体づくり運動」を中心として柔軟性を高める運動を積極的に行う。教員の研修を校内で行い、実現できるようにする。
	○運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力	○50m走について、全国平均と比較を下回っている学年が多いため、短距離走を中心に走・跳の運動(遊び)や陸上運動を充実させること。	○地面からの反発を利用した走り方について指導するとともに、自分の走り方を動画で撮影して振り返ることができるようにするなど、ICT機器を活用する。
	○運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度	○1年生～3年生において、記録が全体的に全国平均を下回る傾向がみられるため、運動で行い方を理解し、基本的な動きや技能を身に付けさせること。	○体育の授業の充実をはじめ、各種体育的行事、休み時間等でボルダリングなどの学校施設の積極的な活用を計画的に進め日常的に運動ができるようにする。
			○運動の行い方について十分理解して取り組むことができるよう、掲示物など視覚情報を用いるとともに、児童同士が互いに関わり合いながら運動できるようにする。
			○友達や仲間とともに楽しく運動を行えるよう、言語環境を整える。

令和8年度 授業改善推進プラン

国際	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	○相手意識をもち、既習表現を組み合わせ、会話する楽しさを味わう力 ○自己の課題を踏まえ、自己に必要な学習を選択する力	○相手に応じた表現の工夫：単に発話するにとどまり、相手に伝わるよう言い換えたり表現を工夫したりする意識(相手意識)に課題が見られる。 ○対話を深める反応：相槌や聞き返し、質問などを通してやり取りを継続・深めようとする態度に課題が見られる。 ○主体的な学習選択：習熟度差が大きい中、自身の課題に合わせて自発的に学習内容を選択する力に課題が見られる。	○相手に応じた工夫の価値付け 英語が得意な児童を含め、単なる発話にとどまらず「相手に合わせた言い換え」や「反応に応じた伝え方の工夫」など、相手配慮のある対話姿勢を正しく評価・指導する。 ○対話の必然性のあるゴール設定 互いの考えや背景を引き出し合える思考的な問いや協働課題を設定し、目的意識をもったやり取りの機会(Small Talk 等)を継続的に確保する。 ○低・中学年：歌や動画、を取り入れた活動を通し、基礎的な表現ややり取りの素地を定着させる。 ○高学年：ICT 機器等を活用した選択的学習(My Practice Time)を導入し、児童が自身の習熟度や課題(基礎の定着／表現の拡充)に応じた学習を選択・調整できるようにする。

令和8年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
道徳	○道徳的諸価値について の理解を基に、自己を見 つめ、物事を多面的・多 角的に考え、自己の生き 方についての考えを深 める力	○教材を活用し多面的・多角的に 考えてきたことが、自己の生き 方について考えを深めること につながらない。道徳科の時間 が、「自己の生き方について考 え深める時間」という認識がな されていない。	○問題解決学習を通して、問題や課 題を主体的に解決するために必 要な素質を養う。その際に、役割 演技などの体験的な学習を通し て、道徳的価値を実現するための 能力を養う。
	○物事を当事者として捉 え、解決に向けて考え続 ける力	○様々な事象に対して、「よりよ く生きる」当事者としての意識 をもち、向き合い考える習慣が 定着していない。	○毎授業で、取り扱った内容や自分 の考えを振り返る時間を確保す る。今の自分を振り返り、その時 間に学んだ価値が自らの生活に どのように結び付いているか考 えさせる。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
特別活動	○多様な相手と協働して活 動する意義を理解する力	○課題解決のための話し合いが自 分中心になり、集団として折り合 いをつけて合意形成する力に課 題が見られる。	○互いのよさや可能性を考えながら、 集団や自己の生活上の課題を解決 できるよう学級活動等を通じて指 導していく。
	○課題を解決するために話 し合い、合意形成を図り 実践していく力		○異学年交流や児童会活動、クラブ 活動を通して、一人一人が活躍で きる場を設定していく。その際に、 児童同士ののびのびやよさに注目 できるように指導する。

令和8年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
総合的な学習の時間	○地域の人・もの・ことに 関わる探究的な学習を 通して、課題を解決する 力	○自らすすんで課題解決してい こうとしたり、見通しをもって 追究したりする力に課題が見 られる。	○児童がすすんで問題解決してい こうとし、探究的な学習ができ るよう、ゲストティーチャーを招い たり、校外学習を取り入れたりし て問いを高める工夫をする。
	○自己の生き方を考える ことができるようになる ための力	○調べた情報を整理したり、選択 したりし、その情報を自己の生活 に生かしていく力に課題が見ら れる。	○様々なゲストティーチャーや、地 域、教職員の考え方や生き方を聞 く中で、自らの生き方が考えられ るようになる。具体的には、タブ レット端末を使用したり、他者と 交流する時間を設けたりする。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
生活科	○自分自身、身近な人々、 社会及び自然の特徴や よさや関わりに気づき、 生活上必要な習慣や技 能を身に付ける力	○自然と触れ合える場や、動植物 と関わる機会が少ない。栽培活 動の体験も多くはないため、生 活上必要な習慣や技能、知識に 課題が見られる。	○一人一鉢を所有して、植物を育て る活動をしたり学級園を活用し て野菜を栽培したりする。その中 で生き物の存在にも触れ自然と 関わりをもつ機会を設ける。植物 への関心を高め、栽培や収穫する 喜びが感じられるようにする。
	○自分の思いを実現させ るための判断を行い、身 近な人々、社会や自然を 自分との関わりで捉え、 言葉や絵などで表現し 伝え合う力	○自分の思いをもって学習と向 き合う意識の向上に課題が見 られる。学んだことを自分と関 係付けて表現する経験が少な く、見たことや感じたことを表 現する力に課題が見られる。	○学習のめあてをもたせ、活動の目 的を明確にすることで自分の思 いを明確にする。学んだことを絵 や言葉で表現し、身近な人に伝え る時間を意識的に設け、お互いに 学習成果物を見合えるようにす る。